

平成 26 年 2 月

ひとところ破けてあたり春障子
白梅の五弁を統べる蕊の紅
初場所の花道を行く大銀杏
佐保姫の蹴出しちらちらしたをりぬ
この季語は次期尚早ぞ春隣
鬼よりも豆を怖るる奥歯かな
その穴そ覗くためなる春障子
落の臺の苦味を褒めて進日派
梅見かな俺も俺もと奈々俺へ
探梅の蕾に潜む雷の文字